



野口 昌作 議員

農地保全管理組織の育成と支援を

町長

関係機関と連携して行う

〔野口〕 農業は本町の主産業で、ブロッコリーはG1登録などで町を盛り上げている。しかし、集落周辺で家庭菜園に重宝されていた農地でも、耕作放棄が見られるようになった。

〔町長〕 農地が荒れば集落が荒れる、集落が荒れば地域が荒れる。そうならないように保全管理組織を育て支援する考えはないか。

〔町長〕 各集落で農地を取り巻く環境は様々であり、問題を地域で話し合うことが重要である。

地域に合った組織などの育成支援を関係機関と連携して行う。

〔米澤農業委員会会長〕 町長や委員会農政政会でこの問題を話し合っている。組織の育成や体制を支援することが重要と考えている。

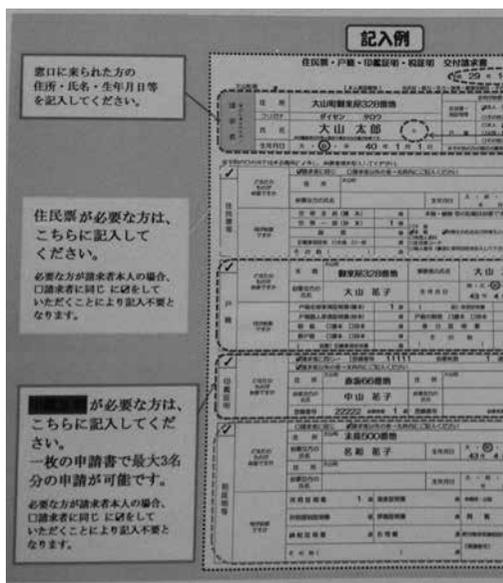
役場に集落支援係の設置を

町長

考えていない

〔野口〕 少子高齢化の流れで、集落役員など敬遠されがちだ。役場への申請など、わずらわしいと言われる。住民あつての自治体だ。役場と住民との絆を強くする集落支援係を設置する考えはないか。

〔町長〕 考えていない。申請書類の簡素化や区长文書の配布日の減などに努めている。本庁・支所窓口で相談いただくと、担当課に取り次ぎする。気軽に相談してほしい。



申請書記入も手助けが必要

防災監と下市駅周辺の防災対策は

町長

防災監で防災スピードは変わらない

〔野口〕 12月の一般質問の際、下市駅周辺の浸水被害は充分調査をするとのことだった。

4月から防災監を就任させるとのことだが、駅周辺、そのほかの防災対策のスピードは、就任でどのように変わるか。

〔町長〕 下市駅は、JR横断暗きよの断面不足、雨水の集中などが考えられる。多額の費用が必要であり、有利な制度を検討している。そのほか災害復旧で、指摘事項があればすみやかに対応する。

防災監の就任で防災のスピードは変わらない。



路肩崩壊 早い復旧を